

専門分野

【精神看護学の考え方】

精神看護学は、現在の精神科医療及び精神保健福祉サービスの変化、精神科病院を中心とした入院中心から地域でのケアへという流れの中で、精神の障がいを持ちながら地域で生活している人々の理解と、地域生活を支える社会資源やサービスの種類・制度の理解が必要となる。

精神科看護における看護の対象は、すべてのライフサイクル、すべての健康水準にある人であり、自分たちを含むものである。精神疾患やその症状は、生まれ持った体質や気質、生育環境などが影響し、誰もが経験する可能性を持っている。

厚生労働省は2012（平成24）年に精神疾患を加えた「5大疾病」を地域医療の基本方針となる医療計画で重点的に取り組むべき課題とし、現在の第7次医療計画でも継続的に取り組まれている。また世界保健機関（WHO）によると2017年時点で何らかの精神障害に苦しむ人が世界中に約9億7000万人おり、全世界の8人に1人の割合といわれている。我が国においても、厚生労働省の患者調査による精神疾患を有する総患者数、外来患者数の推移はいずれも増えており、自殺やメンタルヘルスの問題は、当事者だけにとどまらず、周辺の人々や地域社会へ長期にわたる深刻な影響を及ぼすものである。一方、入院患者数は減少傾向にあり、なお一層、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをするための精神障害者にも対応できる地域包括ケアシステムの構築と、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築が求められている。

精神に障がいを抱える対象の生きにくさ、病の苦しみや孤独感に加えスティグマ（社会的烙印）という偏見にも苦しむという特徴を踏まえ、人の痛みに対する想像力、倫理観を育むことで対象や家族の尊厳を守ると同時に、自分自身を大切にすることを学ぶことが求められている。現在注目を集めている当事者研究では、援助者には当事者の力を信じることが欠かせないと言われている。現代の多様な人たちが共生する社会を理解していく必要がある。

以上のことから精神看護学では、人間が生活していくうえで心の健康における重要性と、精神に障がいを持ちながら生活する対象を理解すると同時に、学生自身が自らと向き合い、不安や葛藤を乗り越えていくための土台になる基礎的な知識・技術・態度を身につけることを教授していく内容とした。

精神看護学概論では、精神看護の対象を理解するために、精神の健康について、精神医療保健福祉の歴史と現状を踏まえて教授する。

精神看護援助論Ⅰでは、ストレスやメンタルヘルスについての学習及び精神疾患の治療やその特徴について教授する。

精神看護援助論Ⅱでは、主な疾患看護を中心に病棟での看護の実際、対象と家族との関わり方についての学習と、事例を用いた看護過程を通して精神に障がいを持つ人を全体的に理解する基本的な方法についてグループワークを行いながら学習する。

精神看護援助論Ⅲでは、精神保健医療福祉サービスや社会資源について教授する。地域における社会資源の実際を理解できるよう施設見学を組み入れ、施設の概観及び利用している人との関わりを通して学習する。さらに見学内容の共有を通して学びを深める機会とする。

【目標】

対象の生活を理解し、精神に障がいのある対象と家族に応じた看護を行うための基礎的な知識・技術・態度を身につける。

【目標】

1. 精神看護の基本概念を理解し、看護の対象を理解する。
2. 精神医療の歴史的変遷を学び、対象を取り巻く社会情勢を理解する。
3. 精神疾患・障がいの特徴と、看護に必要な基本的な援助方法を理解する。
4. 精神に障がいを持つ対象の生活を支えるための実際と、精神保健医療福祉における看護師の役割を理解する。
5. 精神看護の基本を理解し、基礎的な看護過程の展開方法を習得する。

【構成及び計画】

講義

科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
			1 年	2 年	3 年
精神看護学概論	1	15		○	
精神看護援助論Ⅰ	1	30		○	
精神看護援助論Ⅱ	1	30		○	
精神看護援助論Ⅲ	1	30			○
合計	4	105		3 (75)	1 (30)

専門分野

科目名	精神看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1.精神看護学の対象について概観を理解する 2.精神医療保健福祉の現状及び歴史を踏まえ対象を取り囲む社会情勢を理解する			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	精神看護学で学ぶこと・トピックス(当事者研究、オープンダイアログ)		講義	
2	精神の健康・メンタルヘルス		講義	
3	精神医療保健福祉の現状		講義	
4	精神医療保健福祉の歴史		講義	
5	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき、心のはたらきと人格の発達		講義・グループワーク	
6	関係のなかの人間 システムとしての人間関係、全体としての家族、人間と集団		講義・グループワーク	
7	ケアの人間関係 ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、チームダイナミクス		講義・グループワーク	
8	筆記試験(45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		精神看護援助論Ⅰ	開講時期	単位数	時間数
			2 年次前期	1	30
担当教員		非常勤講師			
科目目標		1.心の健康、現代社会における心の健康について理解する 2.ライフサイクルとストレスについて理解する 3.精神疾患とその症状、治療について理解する			
DP との 関 連 性		1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 3. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 4. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 5. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	精神保健の考え方 心の機能と発達			講義	
2	「心のケア」と日本社会、ストレスとコーピング			講義	
3	家族への看護			講義	
4	安全を守る 自殺、自殺企図、自傷行為とその予防			講義	
5	地域保健活動、学校職場におけるメンタルヘルス			講義	
6	精神科疾患のあらわれ方、治療① 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害			講義	
7	精神科疾患のあらわれ方、治療② 気分＜感情＞障害、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害			講義	
8	精神科疾患のあらわれ方、治療③ 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群(摂食障害、非器質性睡眠障害、睡眠のケア、周産期に現れやすい心的不調			講義	
9	精神科疾患のあらわれ方、治療④ パーソナリティ障害、小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害、習慣及び衝動の障害、知的障害			講義	
10	精神科疾患のあらわれ方、治療⑤ 性同一性障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害、精神療法			講義	
11	精神科疾患のあらわれ方、治療⑥ 薬物療法ほか			講義	
12	社会のなかの精神障がい① 歴史			講義	
13	社会のなかの精神障がい② 精神障害と法制度(精神保健福祉法を中心に)			講義	
14	社会のなかの精神障がい③ 精神障害の文化、精神保健医療福祉施策の動向			講義	
15	災害時のメンタルヘルス、PFA			講義	
評価方法	筆記試験 こころの健康 50% 疾患理解 50%を総合して評価する				
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院				
実務経験	本科目は保健師・医師として実務経験のある教員による授業である				

専門分野

科目名		精神看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
			2 年次後期	1	30
担当教員		非常勤講師・専任教員			
科目目標		1.精神に障がいのある対象の看護を考えるために必要な考え方・方法を理解する 2.事例を用いた看護過程を通して、精神に障がいのある対象の全体を捉える基礎的方法を理解する			
DP との 関 連 性		1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 3. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 4. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 5. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 6. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法	
1	生きる力と強さに着目した援助 レジリエンス・リカバリ・ストレングス			講義	
2	患者の権利擁護＜アドボカシー＞、暴力予防			講義	
3	セルフケアへの援助 オレム・アンダーウッドモデル			講義	
4	精神の健康とマネジメント 患者と家族の看護、リエゾン看護			講義	
5	援助関係の構築、信頼関係の基礎作り			講義	
6	家族への看護 社会復帰・社会参加への支援			講義	
7	精神科病院での看護の実際			講義	
8	精神看護過程の基本			講義	
9	精神看護過程の展開方法			講義	
10	事例を用いたグループワーク①			グループワーク	
11	事例を用いたグループワーク②			グループワーク	
12	事例を用いたグループワーク③			グループワーク	
13	事例を用いたグループワーク④			グループワーク	
14	グループ発表・共有			グループワーク	
15	筆記試験 2 回				
評価方法	精神看護の実際 50% 看護過程 50%を総合して評価する				
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院				
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である				

専門分野

科目名		精神看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
			3 年次前期	1	30
担当教員		非常勤講師・専任教員			
科目目標		1.精神に障がいのある対象の生活について考えることができる 2.精神に障がいのある対象の力や、地域での生活を継続するための工夫について知ることができる 3.精神に障がいのある対象を取り巻く社会資源及びサービスの実態を理解することができる 4.地域におけるケアと支援の実態と役割を知ることができる			
DP との関連性		1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 3. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 4. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 5. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 6. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 7. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	精神看護学で学ぶこと 精神看護の課題			講義	
2	社会のなかの精神障がい① 精神障がいと社会学			講義	
3	社会のなかの精神障がい② 精神障がいと法制度			講義	
4	社会のなかの精神障がい③ おもな精神保健医療福祉対策とその動向			講義	
5	地域におけるケアと支援① 地域における生活支援の方法			講義	
6	地域におけるケアと支援② 地域におけるケアの方法と実際①			講義	
7	地域におけるケアと支援③ 地域におけるケアの方法と実際②当事者の体験談			講義	
8	地域における精神障がい者が利用できる社会資源 障害者総合支援法、精神保健福祉法に基づく社会資源			講義	
9.10	施設見学(9:00-12:00) 就労移行支援、就労継続支援 A型・B 型、生活介護			施設見学	
11.12	施設見学(13:00-16:00) 地域活動支援センター、デイケア、グループホーム、相談支援事業			施設見学	
13	施設見学で学んだ内容の学びのまとめ			グループワーク	
14.15	グループ発表・共有			グループワーク 講義	
評価方法		レポート サービスの実態 50% 生活支援の実態 50%を総合して評価する			
教科書		精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験		本科目は精神保健福祉士・保健師として実務経験のある教員による授業である			